
『ラブストーリー』を求める人間たち--斜めな視線で批判をしましょうか--

ハルメク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『ラブストーリー』を求める人間たち - 斜めな視線で批判をしましょうか -

【Nコード】

N7986A

【作者名】

ハルメク

【あらすじ】

あなたは『ラブストーリー』が好きですか？『ラブストーリー』のような恋愛がしたいですか？でも待つてください。その前にこの注意書きを読んでみてくださいね。

「世界の中心で愛を叫ぶ」
という作品があるらしいですが、私は小説もメディアミックスされたものも読んだり見たりしていません。お話の大体の感じだけは何んとくわかります。

【ヒロイン】死にそう　ヒロインを精一杯サポートする【主人公】
【ヒロイン】死亡　【主人公】時がたつて自分の中に溜まっていたものを叫ぶ

こんな感じでしょうか？

人づてに聞いたものを継ぎ接ぎして構成してみました。いわゆるヒロインが死にそうなのを主人公が愛やらなにやらで援助するがその甲斐なくヒロインは死に一人の残される主人公はヒロインのことを胸に仕舞込んで残りの人生を生きて行く的な悲しいラブストーリーであるうと思います。

このラブストーリーを支持されている方がこの文章を読むと

「そんな簡単に言い尽くせるものじゃない！ セカチューをバカにするな！　ヒロインは精一杯生きたんだ！　主人公はヒロインを愛してたんだ！」

と言われるかもしれません。

そう言いたい方の気持ちも分かります。しかし僕が言いたいのは、『セカチュー』は【フィクション】だということです。作り話。作家の妄想。　は？　わかってんよそんなことあ　と言われる人もい

るでしょう。しかしながら、その安易な認識が今から私が提唱する問題に関わってくるのです。

大部分の人は『セカチュー』を見てこう思うのではないでしょうか。

「あんな深い絆を育める恋愛がしたいなあ」

と。

『ラブストーリー』はそんな願望を私たちの中に生み出してしまいます。

「あの俳優みたいな男性と付き合いたいなあ」

「あの女優みたいな女性と付き合いたいなあ」

しかしそんなことは起こり得ません。女優みたい、俳優みたいな（顔が似た）異性とは交際できるかもしれませんが、『ラブストーリー』のような恋愛が出来るわけではありません。それは『ラブストーリー』が【フィクション】だからです。作り話。作家の妄想。

そのとおりに恋愛を進めることなどできないのです。人は『ラブストーリー』どおりにいかない恋愛をすぐに止めてしまいます。

よくあることでは、

「あなたはやっぱり理想と違ったわ」

と別れを言い出すパターン。これは自分の理想とした『ラブストーリー』に相手が合致しなかったために別れてしまうのです。

こういう人たちは相手の中のものを見て相手を好きになっていくのではなく、相手を『ラブストーリー』と比較しながら好きになっていきます。こういう人たちは時々『ラブストーリー』を重視するあまりに悲惨な末路を辿ることがあります。

「きゃあ！ あの人『xxxxxxxxx』のxxxxxxxxみたい！」

と思いつき、声を掛け幾日かするうちにつき合いたし、そして『ラブストーリー』に合致しているからと結婚にまで至ります。

しかしその相手の内面を見ようとしなかつたので相手が実は内に乱暴な性格をもっているとは知らずドメスティックバイオレンスにあっってしまうという末路。

悲惨です。『ラブストーリー』を創る側はこんな副作用を考えて創作はしません。注意書きも、またないので。文学や、様々なインタビューメント作品は我々の行動や思想に大きく作用します。しかし我々は何処かに客観的な自分を置いて（六波羅探題、公正取引委員会みたいな感じですかね）、自分が『ラブストーリー』の型に嵌りそうになる時に元の自分を取り戻せるような構えが必要であると思います。

『ラブストーリー』は夢を与えます。しかしそれが夢という【フイクション】であることを忘れてはなりません。夢に魅せられて、日々の努力や頑張りを怠ってはいけません。

(後書き)

・誰か、ぼくに良い受験勉強法を教えてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7986a/>

『ラブストーリー』を求める人間たち--斜めな視線で批判をしましようか--

2011年1月29日14時34分発行